

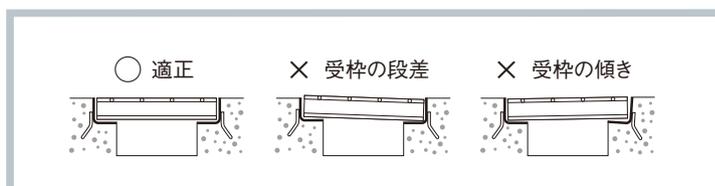
受枠の施工要領について

グレーチングの変形、騒音発生、コンクリートの破損は、受枠の施工不良が原因です。

受枠の施工は次の注意事項につきまして十分注意していただき、施工をしていただきますようお願いいたします。

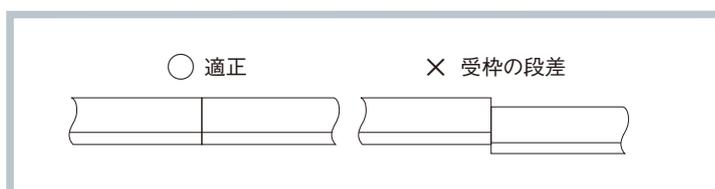
左右の水平度

現場打ち用通し枠 (L, LBT) は、左右が連結されていないため、段差、角度等に注意して、水平を保つように施工してください。



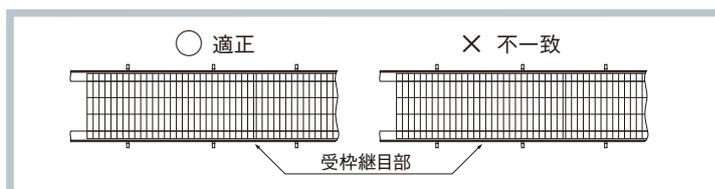
継ぎ目部の段差

受枠の継ぎ目部に段差があると、グレーチング上面のレベルが不均等になり、継ぎ目部に渡ってグレーチングを敷き込みますと、変形、騒音の発生などの原因となります。



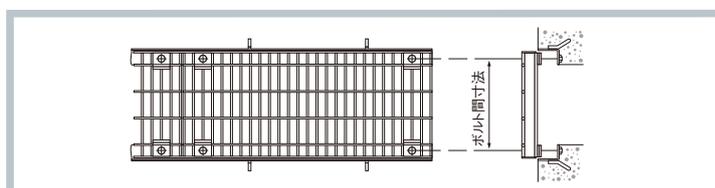
継ぎ目部の一致

受枠の継ぎ目とグレーチングの継ぎ目が一致するように施工してください。



ボルト間寸法の確認

ボルト固定式グレーチングの受枠は、グレーチングのピース穴位置と受枠のボルト位置が一致するようボルト間寸法に注意しながら施工してください。



縦断勾配のある路面

縦断勾配のある路面では、グレーチング上面が路面勾配と一致するように施工してください。

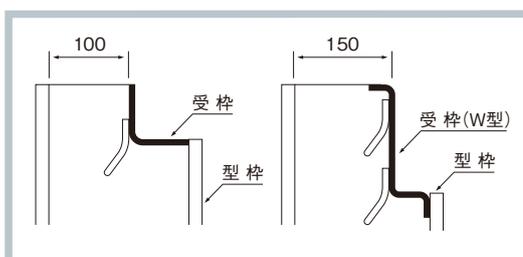
勾配のある路面へ施工する場合は、路面完成後コンクリートカットにて路面を切断し溝を加工すると、勾配の一致が容易です。

受枠の取付け角度は、路面勾配と90°にしてください。グレーチングの脱落及び騒音の発生の原因となります。

車両の走行がスムーズではなく、またグレーチングに大きな衝撃がかかりコンクリート破損の原因となります。

コンクリートの打込み幅

受枠の背面から100mm以上 (Z型、W型は150mm) 確保してください。



コンクリートの圧縮強度

使用するコンクリートの圧縮強度は21N/mm²以上としてください。